



コーポレティブ銀行  
(マンチェスター)の窓口

feature story 1

# ソーシャルなお金の貸し方

## 「志」のお金で社会や地域を変える

社会性が高い事業を行う企業やNPOに融資する「ソーシャル・ファイナンス」が脚光を浴びている。貸し手の多くは大手の金融機関ではなく、有志から出資を募り、お金の流れで社会を変えようとするソーシャル・バンカーたちだ。その姿を追うと、貸し手と借り手が顔を付き合わせ、二人三脚で事業を発展させていくという、金融業の原点とも言える姿が浮き彫りになった。この流れをさらに広めるには、何が必要なのか。

(編集委員 石井孝明、吉田広子)



08年8月、momoの融資面談

### メガバンクの行員が融資を紹介

東京・芝の小さな雑居ビルに居を構える「スーパー・フェイズ」という会社が、社員はわずか4人。一級建築士でもある木村幸弘社長(61)が2004年に設立した。紙おむつを濡れたまま入れ、乾燥させてペレット状の固形燃料に加工する機械を製造・販売している。

その後、同社のビジネスは軌道に乗り始めた。これまでに2台の機械を販売し、解してもらった。苦しい時期を乗り越える助けになった」と振り返る。

その後、同社のビジネスは軌道に乗り始めた。これまでに2台の機械を販売し、解してもらった。苦しい時期を乗り越える助けになった」と振り返る。

### 既存の金融機関は対応しにくい分野

スーパー・フェイズとap bankのストーリーは、今の日本の金融を巡る問題を浮き彫りにしている。社会性のある事

### ソーシャル・ファイナンスとは

ソーシャル・ファイナンスの定義は「金銭的収益と同様に社会的収益もしくは社会的配当を追求する機関によって提供される金融活動」(アイルランド政府の報告書)が一般的だ。ただ、何を「ソーシャル」とするのか具体的な線引きはまだない。具体的にはNPOバンク(金融NPO、非営利の融資団体)、開発途上国の貧困層向けに提供されるマイクロファイナンス、社会的事業に投資を行っている欧州のソーシャル・バンクなどがある。日本のNPOの場合、「バンク」といっても銀行ではなく、貸金業の登録をした上で貸付け業務を行っている。

紙おむつのゴミは年間推定で120万トンと日本の一般ゴミの約25%に達し、年間数百億円の処分費用がかかると推定される。これをエネルギーの熱源にすれば暖房費の抑制、再利用によるゴミの減少など、社会に役立つ効果がある。

だが同社は廃棄物業界では新参者。当然のことながら最初は売り込みに苦労した。木村社長が自らの資産をつぎ込みな

業や、利益を大きく見込めない事業を手掛ける社会起業家やNPOは、資金力に乏しい場合が多い。

その一方で、既存の金融機関の多くは経営者の個人資産、担保力、事業の実績、収益性などのスコアリング(点数化による審査)によって融資の可否を決め、社会的事業の有意性や社会問題を解決しようという意識、さらには経営者の「志」を評価する仕組みがないのが実情だ。「素晴らしい話だが、今の私にはできない」。あるメガバンクの支店で融資を行う30代の金融マンはap bankの活動をうらやましがらる。

「本部から利益目標が課せられ、採算度外視の事業を育てる資金も時間もない。どこに貸すべきか、預金者の意思を確かめる仕組みもない」

メガバンクは企業や個人向け融資が中心だが、ソーシャル・ファイナンスで期待されるのは規模が小さい創業直後の企業やNPOだ。環境活動や社会貢献で成果を上げている企業に対して金利優遇をする大手金融機関も増えてきたが、そもそもメガバンクと社会起業家や非営利分野との人脈や情報のパイプは細い。

### 労働金庫がNPOに積極融資

一つ先の先駆的な事例がある。中央労働金庫(東京・千代田)は、他の労働金庫

がらやってきたが、05年、あるメガバンクにベンチャー向け融資を申し込んだ。しかし、「実績がない」という理由から最終段階で断られた。

普通はそこで話が終わるが、残念に思った同行の担当者がap bankを紹介してくれたことで、新たな道が開けた。ap bankは音楽プロデューサーの小林武史さん、人気バンド「Mr.Children」

と「NPO事業サポートローン」を00年4月に始めた。08年3月末までに全国13の労働金庫が合計364件・24億4200万円の融資をした。

金利は無担保でも08年末時点で2%台と低め。「利益はほとんど出ませんが、今では組織の中にこの制度を育てたいとの考えが広がっています」と企画部次長の山口郁子さんは話す。

山口さんらは、この制度を考える際に自らの組織の存在理由を見つめ直した。労金は労働組合や生活協同組合を支援するために設立された。「地域で健全なNPOが活動できるように手助けすること」は、「働く人を助け幸せにする」という労金の理念と一致する(山口さん)。

労金の営業現場では当初、なじみのないこの制度への戸惑いがあった。だが、山口さんたちがNPOとの橋渡し役として、社内に「自分たちの仕事の目的は何か」と問いかけ続けた結果、労金の組織全体に受け入れられるようになった。

NPOへの融資では、なかなか画一的な融資基準を作るのは難しい。「最低限の共通言語」(同)である財務諸表や事業計画の数字を借り手とやり取りするが、それだけでは決まらない。地域への影響や代表者の人柄・経験、あるいはどれだけ多くの応援があるかなども評価してきた。「借り手からは『役に立った』

のボーカル桜井和寿さん、そして作曲家の坂本龍一さんらがポケットマネーを総額1億円出資して立ち上げた非営利の融資団体、いわゆる「NPOバンク」だ。本誌21ページの表の通り、環境保全活動や地域社会づくりなど社会的な意義が大きい事業に低利融資をしてきた。

05年、ap bankはスーパー・フェイズに500万円の融資を年率1%の金利と言っていたことが多く、労金のイメージの向上にもつながった(山口さん)。

事業拡大を目指すNPOの間で、労金の融資制度はすでに有名な存在だ。そして、各地の労金はNPOのための金融・財務知識の普及活動、経営サポートなど、さまざまな支援活動にも乗り出した。努力と工夫次第で、既存の金融機関でも新しい流れを生み出せるという好例だ。

### NPO向け融資、貸し倒れゼロ

歴史的に地域の振興や中小の農工商業者への金融を行ってきた「信用金庫」も、「ソーシャル・ファイナンスの担い手」として期待が集まる。すでに多くの信金がNPO向け融資制度を立ち上げたが、残念ながら、実績を上げている信金はまだ少ない。

その中で西武信用金庫(東京・中野)は03年9月から地域の社会性の強いビジネスや社会福祉法人、認証・認可保育所、またNPOなどに融資をする「西武コミュニティローン」を開始した。5年間の融資額の累計は、150件を超過50億円に迫るなど、この種の融資の中ではかなり多い。驚くべきことに「貸し倒れ」はゼロだという。

同金庫の常勤理事・事業支援部長の高橋一朗さんは「お客さまの決算書の総和